

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 別福会	代表者	北地 輝昭	法人・事業所の特徴	「わたくしたちは、地域とともに歩み、地域から愛され信頼され希望ある施設づくりをめざします。」という理念のもとに、ご利用者様を主体とし、地域連携を基礎に寄り添ったケアを実践している家庭的であったかみのある事業所です。				
事業所名	福祉の森 光町事業所	管理者	松川五織理						

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人		7人			1人		2人	2人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・アンケートの実施。 ・取り組む為の具体的な方法を理解し地域資源との組み合わせを強化実施する。	H30.2月実施済み(集計し職員間で共有し今後の支援に役立てている)	・情報の共有を図った結果がどのように利用者等に還元されているかがよくわかるといい。 ・自己評価でわからないと答えた職員に対して今後の対応を考えた方がよい。	
B. 事業所のしつらえ・環境	・壁飾り等、利用者様参加、協力を得て作成。 ・定期的に模様替えをする。	・壁に季節の花を作成(利用者様の協力を得て) ・施設内のいらない物の破棄・整理整頓	・玄関に気持ちよく入れるようになった。 ・季節感を取り入れるのはとてもよいと思う。 ・前よりはよくなつた。 ・壁飾りは言われないとわからなかつた。	
C. 事業所と地域のかかわり	・地域行事を把握し、積極的に参加する。 ・事業所からも地域行事を発信する。	・バザーの実施(9月) ・交通指導に参加 ・地区の盆踊りに参加	・気持ちよく挨拶してほしい。 ・地域の防災訓練やバザーに参加され以前より参加が増えてるので評価できる。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・地域包括センター、民生委員との連携を継続。 ・地域に出向き情報を積極的に聴く。	・民生委員との情報共有をした。 ・相談の件数が少なかったが、連携できていた。 ・地域との関わりはあるが、積極的に情報を聴くことはできなかつた。	・情報を提供し合うとよりよくなるのではないか。 ・利用者のお住まいの地域に出向いて情報を得、その地域と関わっているかがわからない。	
E. 運営推進会議を活かした取組み	・光町事業所通信を作成し回覧等で回す。 ・県内研修等を活用する。	・1月、4月、6月、10月に光町事業所新聞を作成し回覧で回した。(回す) ・県内研修の実施	・光町事業所通信を推進委員に送ったらどうか。 ・地区的回覧を入れたらどうか。 ・個人で参加した外部研修も職員間で共有できる仕組みをつくるとよいのではないか。	
F. 事業所の防災・災害対策	・防災行事のパンフレットを作成し配布し、地域の人に参加を呼びかける。 ・AED講習会等を計画する。	・パンフレット作成の実施はできていない(担当者を決めていなかつた) ・消火器の設置 ・火災報知器の定期点検の実施	・耐震工事をしたことは評価できる。 ・計画に沿った防災訓練の実施をしたほうがよい。 ・AED設置の検討 ・地区と共同でAED講習会をしたらどうか。	